



終戦前日まで攻撃続く

おおいた戦後80年
空襲の記憶

記録に死者564人 来襲250回

大分合同新聞はきょう18日から「おおいた戦後80年 空襲の記憶」の企画を始めます。県内を目標にした組織的な空襲は1944年3月18日に始まり、終戦前日の8月14日まで各地が銃撃・爆撃に見舞われました。80年前に空襲があった同日付の紙面に、県内の被害を各種資料に基づいて掲載します。併せて、73年8月9日の本紙連載企画「大分の空襲」（75年に書籍化）から体験者の声を抜粋して再掲します。「大分の空襲を記録する会」が収集した貴重な証言です。戦時下の県民の体験を現在に伝えたいと考えています。（小林大輔）

県内の初空襲は1944年6月、北九州へ向かう途中の米大型爆撃機B29が落とした爆弾で家族4人が亡くなった。本格的な空襲は45年3月5日、連日のように爆撃機が飛来して大分の攻撃を繰り返した。

梅雨時季や部隊の休養などが重なった6月ごろを除き、連日のように爆撃機が飛来して大分の攻撃を繰り返した。佐伯、大分、宇佐にあった海軍の航空基地が主な目標になった。大分市は海軍航空廠（工場）も狙われていた。4月には学徒動員で働いていた中学生18人を含む70人余りが犠牲になった。重要



県内が初めて目標になった3月18日の空襲では、佐伯、大分、宇佐の航空基地が攻撃を受け、各地の駅や列車も襲われた。軍と民間

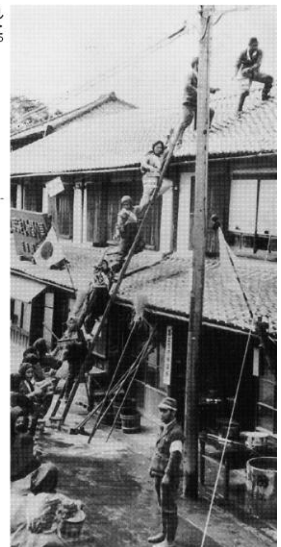
航空基地や駅、列車標的

を合わせて数人が死傷したとみられる。4月に迫った姉妹上陸作戦の支援を任務とする米軍の艦隊がこの日、九州の東

大分県内の主な空襲

1944年 6月16日	北九州へ向かう大型爆撃機B29のうち1機が中津市耶馬溪町に爆弾を投下、4人死亡
1945年 3月18日	米軍の艦載機が佐伯、大分、宇佐の航空基地や杵築駅付近の列車などを攻撃、数十人死傷か①
19日	大分市の航空基地などを攻撃。滝尾駅付近の列車が機銃掃射を受け3人死亡
27日	大分市をB29が爆撃、住民5人死亡
4月21日	大分市の海軍航空廠が爆撃され学徒動員の中学生を含め70人余り死亡②。宇佐航空隊では隊員ら約320人死亡か
26日	佐伯市街地で爆弾が防空壕に直撃するなどし、住民46人死亡③
5月5日	日本軍機の攻撃を受けたB29が竹田市に墜落
7日	中津市三光の八面山と佐伯市弥生でB29各1機が墜落。大分市の大野川東岸に爆弾が落ち住民10人死亡
8日	大分市で爆弾が市街地に落ち11人死亡
13日	佐伯海軍防備隊の建物が全壊
14日	佐伯と宇佐の航空基地に大規模な空襲。姫島近海では船舶が攻撃され死者多数④
7月2日	臼杵市の家屋密集地区に焼夷弾⑤
17日	大分大空襲。B29の大編隊が市街地を焼夷弾で爆撃し、2358戸が全壊、49人死亡⑥
24日	日田市で2人死亡⑦。姫島灯台が破壊され点灯不能に
26日	津久見市の保戸島国民学校が爆撃され児童ら127人死亡⑧。国東高等女学校で生徒2人死亡⑨
28日	日出町の海岸で空母「海鷹」が猛攻を受け使用不能に、20人死亡⑩
31日	豊後大野市の朝地駅で列車が機銃掃射を受け12人死亡⑪
8月4日	玖珠町の高機関庫への機銃掃射で3人死亡⑫。北由布駅も攻撃を受け炎上、2人死亡⑬。佐伯市で4人死亡
5日	竹田市の工場に爆撃、1人死亡⑭
8日	宇佐市で家屋数十棟が焼失、6人死亡⑮
9日	杵築市沖で貨物船が攻撃され5人死亡
10日	大分市街地西部が焼夷弾で広範囲を焼失、8人死亡
14日	大分市佐賀間で製錬所が爆撃を受け2人死亡⑯。佐伯市で4人死亡
15日	終戦

※「大分県警察史」（1986年）をベースに各種資料に基づき作成。なお不明な点も多い。施設名は当時、地名は現在のもの。①～⑯は地図上の場所と対応



空襲による火災を想定したバケツリレーの訓練＝大分市（撮影時期不明）

県民に備え義務化

戦時中、県民は空襲への備えや消火活動を義務付けられた。家庭では夜間の灯火管制をはじめ、消火器買や防毒マスクの用意、防空壕を造るなどが求められた。警防団や隣保班を通じた指導のほか、注意点を記した家庭向けの冊子やチラシも作られた。

8日を「防空実践日」と定め、住民らが消火訓練などを繰り返した。45年には空襲の激化を受け、大分市や佐伯市が学童疎開を始めた。大分、別府、佐伯、中津などの各市街地では同年7月から、事前には民間などを撤去して空襲時の延焼を防ぐ強制疎開（建物疎開）を実施した。

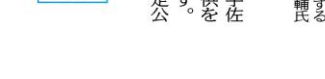


県は1943年から毎月この特集は戦中・戦後の本紙掲載記事のほか、主に次の文献を参考にした。▽大分市警防課防室日記（1945年）▽国立国史館書庫デジタルコレクション▽大分県警察史（63年、86年）▽大分の空襲（73年連載、75年出版）▽大分の歴史（79年）▽大分の百年（86年）▽米軍資料 大分空襲の記録（99年）▽おおいたの戦争（2005年）▽各町誌（史）▽勝洋三氏（空襲、戦災を語る）▽会務部長の語（宇佐市）▽編者（豊）の語（佐伯市）

宇佐海軍航空隊では、特攻兵器「桜花」を積んだ攻撃機の出撃準備中に2回目の空襲があった。少なくとも14人が死亡し、出撃は中止された。佐伯、大分を含め、基地だけでなく周辺地域にも死傷者が出た。

鉄道も攻撃目標となった。杵築駅の近くで列車が機銃掃射を受け、20人余りが死傷。同じ日豊線の浅海井や幸崎でも攻撃があった。空襲は約10日も続いた。

Gateで動画公開
大分合同新聞プレミアムオンライン「Gate」にては、3月18日に県内各地であった空襲を撮影した動画を公開しています。米軍機に搭載されたガンカメラの映像です。米国立公文書館から複製を入手





〔問①〕 大分県を目標にした組織的な空爆は1945年の何月何日に始まりました。

〔問②〕 被害の全容は定かではありません。1945年10月に内務省がまとめた文書では、
県内の死者は何人、重軽傷者は何人ですか。

〔問③〕 この調査記事を読んで、戦争について話し合おう。